



### 今、医療に求められるプロフェッショナリズムとは～その概念・教育と省察的实践家～

北海道大学病院卒後臨床研修センター 特任准教授 宮田 靖志 (愛媛県11期)

#### 1. はじめに

生涯学習を含めた多くの医学教育カリキュラムにおいてプロフェッショナリズムがアウトカムとして設定されており、近年、医療プロフェッショナリズムの重要性が益々強調されるようになってきています。これは、最近の医療技術の進歩、医療構造の変化、社会や患者の医療に対する意識の変化、医療者の職業意識の変化などにより、医療者と患者・社会との関係が以前と比べ大きく変化した結果と言えるでしょう。

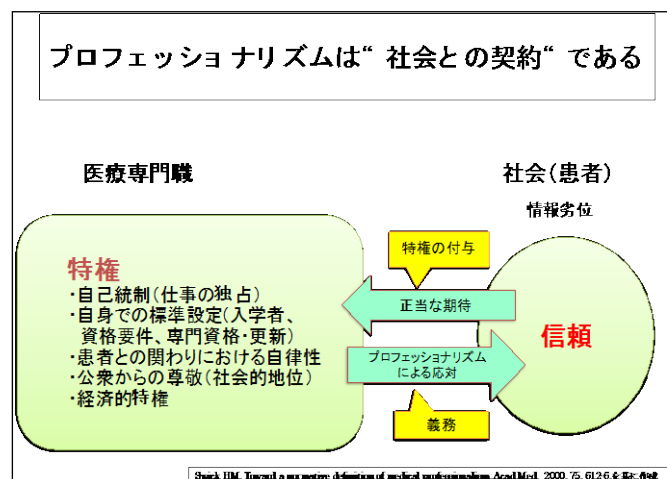


#### 2. 医療プロフェッショナリズムと社会契約 (social contract)

そもそも日本には医療専門職の成立と概念に関する研究はなく、この分野の議論は欧米の研究に頼っています。医師の役割の一つである healer (癒やし人) の概念は古代ギリシャから変わらず続いています。進歩した医療技術の恩恵が多く一般市民にもたらされるようになったことにより、医療を社会の中で有効に機能させるために医師の役割のもう一つの概念であるプロフェッション (専門職集団) が中世ヨーロッパの大学において組織され、現在に至っています。

プロフェッショナル (専門家)、プロフェッション、プロフェッショナリズムの語源となるプロフェス (profess) には信仰を告白するという意味があります。患者は医師の知識・技術・人徳を計り知ることはできないため、医師にはこれらを患者に保証する倫理的責任があるとされ、人々からの信頼を裏切らないという内面的なこと、社会的なことを、神の前、公衆の前でプロフェスする責任を医師は負っています。この意味において、知識と技術と人徳を、患者、社会に信頼してもらうことに関わる責任を引き受けた者が、プロフェッショナルである医師、プロフェッションである医療専門職集団ということになります。

ここで、医師は一方的に倫理的責任を果たしているのではなく、医師、医療専門職集団には社会からさまざまな特権が与えられており、これに互恵的にプロフェッショナリズムで応答する義務があると考えられています (図)。つまり、プロフェッショナリズムは社会との契約 (social contract) であるとされます。もし、社会との関係が大きく変化するなら、医療プロフェッショナリズムも変化する可能性があります。市場原理に基づく医療のために医療と社会の間に様々な倫理的問題が浮かび上がっている米国の状況は、この典型といえるかも知れません。



#### 3. 医療プロフェッショナリズムの定義

プロフェッショナリズムの定義は、医療実践の場の文化やコンテキストによりある程度多様性があり、多くの研究者、学術団体によってそれが提案されていますが、その基本となるのは社会契約であり、よって公共の善のために尽くすことが真のプロフェッショナル、プロフェッションとされます。単に知識や技術的に卓越しているだけで社会的ニーズに応えていない者はエキスパートでしかなく、真のプロフェッショナルとは見なされません。プロフェッショ

ナリズムの定義に関する議論の一定の到達点として 2002 年に発表されたのが、“米欧合同医師憲章と医のプロフェッショナルリズム”であり、そこには 3 つの基本原則と 10 の責務が示されています (ABIM Foundation, ACP-ASIM Foundation, European Federation of Internal Medicine. Medical professionalism in the new millennium: a physician charter. Ann Intern Med 2002; 136:243-246.)。現在はこの定義を用いてプロフェッショナルリズムの議論が行われることが多くなっています。

#### 4. 医療プロフェッショナルリズム教育と地域医療

プロフェッショナルリズム教育の重要性が認識されてきたこの数年、様々な教育方略が報告されるようになっていきます。ここで重要なことは、プロフェッショナルリズムの認知的基礎 (社会契約、healer と profession の属性、など) を明示的に教えること、知識を授けることだけではなく、心に訴えかけるような経験から学習者が学べるようにすること、この両者を継続的に繰り返し行っていくこと、です。

プロフェッショナルリズムの行動規範を教師が一方向的に提示するような教育ではなく、心に訴えかける教育のひとつとして、物語に基づくプロフェッショナルリズム教育 (narrative based professionalism) が試みられており、ロールモデルからの学び、自己の気づき (self-awareness)、物語能力 (narrative competence)、コミュニティへの奉仕がその要素として取り上げられています。コミュニティへの奉仕は地域医療と読み代えることも可能であり、地域医療に従事し、住民、コミュニティのニーズを肌で感じてコミュニティを視野に入れた医療実践していくことは、プロフェッショナルリズムを育む貴重な経験であることに異論はないでしょう。

#### 5. 真のプロフェッショナル・・・省察的实践家 (reflective practitioner)

これら専門家としての生涯教育・学習のすべてにおいて鍵となるのが、省察 (reflection) です。プロフェッショナルリズムを育てていくためには、個々の患者、社会と向き合う最前線の混沌とした実践の中で患者、社会への責任を肌で感じとりながら、その医療実践の中で何が起り、なぜそうなったのか、それはどう概念化され、次の実践にどう生かしていくことができるのか考え、そして実際に次の実践で問題解決に臨む、このサイクルを繰り返して (省察的实践: reflective practice) 個人的変容につなげることが重要とされます (変容学習: transformative learning)。このような実践を展開する者は省察的实践家と呼ばれ、これは現代社会に求められる真の専門家像として、近年、大きな注目を集めています。

#### 6. おわりに

単なるテクニカル・エキスパートではなく、省察的实践を展開し社会のニーズに応える真のプロフェッショナルが求められています。自治医大での卒前、卒後、生涯教育では多様な社会ニーズを経験できる、特に地域医療の中での、教育、学習方略がとられてきており、これらの教育の中で育った学生、医師は、現在の厳しい医療状況の中においても、社会からの信頼に適切に応えることのできる真のプロフェッショナルとなっていくことができると思っています。

### ！！地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集！！

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)

[発行] 自治医科大学大学院医学研究科  
地域医療オープン・ラボ運営委員会  
事務局 学事課大学院係 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)  
<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>